

■柏市都市計画マスタープラン(案)に係るパブリックコメント実施結果

- 1 実施期間
令和5年8月7日（月）から令和5年9月7日（木）まで
- 2 パブリックコメント提出数
9名より計29件
- 3 内容及び回答
いただいたご意見の内容及びそれに対する市の考えは以下のとおりです。
また、ご意見の内容は一部原文ではなく、要旨として掲載しております。

No	ご意見	市の考え方
1	<p>●第2章現状と課題（5）交通体系・18ページ</p> <p>都市計画道路整備率が低く、問題点とされています。一方で少子高齢化が続く中で、広範な道路の敷設・維持は負担が大きいのと思います。可能な範囲・市民の理解を得つつ、市街地区・公共交通機関が存在する地域への誘導を進めていくといった、別の側面でも解決を図ってほしいです。</p>	<p>生活サービスや公共交通の利便性が持続的に確保されるよう、引き続き、居住の誘導に向けた施策展開を検討し、将来の人口減少に備えていきたいと考えております。</p>
2	<p>●第4章地域別構想 59ページほか</p> <p>柏の葉地区でイノベーション促進のため、産業振興を図る旨の記載があります。ライフサイエンス関係だと、基本的にがんセンター・東大が中心になっているかと思いますが、より幅広い疾病での研究開発を促進するため、大型医療機関の誘致などは図らないのでしょうか。柏の葉への市立病院の移転計画が白紙になり、「ライフサイエンス研究」の拠点としての魅力が低下していないでしょうか。</p>	<p>ライフサイエンス分野等の研究開発が盛んなエリアを目指し、企業等の誘致が進められるよう土地利用の見直しを検討していきたいと考えております。</p>
3	<p>スタートアップ支援が打ち出されていますが、柏市で成功した後も拠点を維持してくれるのか、補助金ビジネスにならないのかなどの不安があります。スタートアップがそもそも来てくれない、支援が魅力的でないのは問題です。一方で大きくなってから、継続して拠点を設置し続けてくれる将来構想などがあれば伺ってみたいです。</p> <p>また新たな技術が生まれても高価格過ぎて地域に還元されないのではないかという思いもあります。自治体も人手不足になりつつあると思いますので、企業育成と補助金ビジネス防止の両立のため、アンカーテナンシー契約などを通じて、スタートアップ企業とともに地域振興が進むようお願いしたいです。</p>	<p>市では、「つどう」「つながる」「つくりだす」をコンセプトに、令和5年度からスタートアップを支援する「スタートアップ支援パッケージ」を進めています。まずは市内外からスタートアップを呼び込み、集ったスタートアップが相互につながるができる環境を醸成し、新たなビジネスを創出するという循環を創り出すことを期待しております。</p> <p>ご指摘の拠点については、市内にあります国、県、民間、大学等のインキュベーション施設とも連携しつつ、こうした施設を入居期限後に退去した後、市内で事務所や研究所を設置した場合、自らの事業所を設置する場合には柏市企業立地促進事業奨励金及び千葉県立地企業補助金の活用、賃貸により設置する場合には今年度創設された柏市スタートアップ立地支援補助金による賃料一部補助を活用いただくことが可能です。</p> <p>柏市スタートアップ立地支援補助金については、賃貸対象施設を限定しておらず、インキュベーション施設だけではなく、例えば、既存の工場等の空きスペースを賃貸して事務所を設置することも可能です。この場合、既存の市内事業者と同じ敷地内にスタートアップが立地することとなりますので、既存事業者とスタートアップの連携による新ビジネス創出や人手不足・事業継承等も期待されます。</p> <p>今後も、いただいたご意見をご参考にさせていただきつつ、引き続き、市内事業者の支援を行い、市内経済の活性化に取り組んでまいります。</p>
4	<p>1. 第1章p2</p> <p>■第五次総合計画に記載されている3つの重点目標との整合性について■</p> <p>柏市都市計画マスタープランには、第五次総合計画に定める将来都市像の目標として、「持続可能なまち」、「活力あるまち」、「安心、快適なまち」と記載されております。ですが、第五次総合計画に記載されている3つの重点目標には、「1. 充実した教育が実現でき、子どもを安心して産み育てられるまち」、「2. 健康寿命を延ばし、いつまでもいきいきと暮らせるまち」、「3. 地域の魅力や特性を活かし、人が集う活力あふれるまち」と記載されております。</p> <p>文言を見た限りでは判断が出来ないのですが、以下のことを指していると考えて良いのでしょうか。</p> <p>「持続可能なまち」⇒「1. 充実した教育が実現でき、子どもを安心して産み育てられるまち」</p> <p>「活力あるまち」⇒「3. 地域の魅力や特性を活かし、人が集う活力あふれるまち」</p> <p>「安心、快適なまち」⇒「2. 健康寿命を延ばし、いつまでもいきいきと暮らせるまち」</p>	<p>柏市都市計画マスタープランでは、上位計画である柏市第五次総合計画で定める将来都市像の実現を目指しております。ご意見いただいております「持続可能なまち」、「活力あるまち」、「安心・快適なまち」につきましては、柏市第五次総合計画の重点目標とは異なり、柏市都市計画マスタープランにおける都市づくりの目標となります。</p> <p>「持続可能なまち」⇒鉄道駅等の拠点への都市機能の集積や拠点へ移動しやすい公共交通ネットワークの構築、公共交通の利便性が高い地域における居住の持続などの良好な住環境の形成を促進することにより、持続可能なまちを目指しております。</p> <p>「活力あるまち」⇒地域資源の魅力をつなぎ、来訪者などの交流人口の増加を図るとともに、企業誘致や農業活性化などを通じた産業振興を図ることにより、活力あふれるまちを目指しております。</p> <p>「安心・快適なまち」⇒防災力の向上や良好な景観づくり、環境負荷の低減に取り組むことにより、誰もが安心して快適に過ごせるまちを目指しております。</p>
5	<p>2. 第3章p21</p> <p>■図と出典、改訂前との違いについて■</p> <p>①「将来の人口推計」の図について、図には「R2年国勢調査（実績値）」と記載されており、図下の「出典」の欄には、「平成27年（2015年）は国勢調査、令和2年（2020年）以降は柏市推計」と記載されており、図と出典の記載は正しいのでしょうか。</p> <p>②柏市推計は令和2年（2020年）となっておりますが、「出典」の資料は「H28年3月4日」となっておりますが正しいのでしょうか。</p> <p>③改訂前はH49年度に人口見通しのラインがありましたが、改訂後の資料に記載しなくなった理由はなんなのでしょうか。</p>	<p>P21の「将来の人口推計」につきましては、柏市第五次総合計画の後期基本計画の値を記載しております。</p> <p>出典元が多数あり、わかりにくい表現となっていることから、よりわかりやすい表現に努めます。</p>
6	<p>3. 第3章p45</p> <p>■3つの清掃工場について■</p> <p>南北2清掃工場：柏市北部クリーンセンター、柏市南部クリーンセンター</p> <p>資源化施設：柏市リサイクルプラザ</p> <p>柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合のごみ処理施設：クリーンセンターしらさぎ</p> <p>本文中の内容を見ると4施設だと思われるのですが、「3つの清掃工場体制の合理化」とは、「南北2清掃工場」は1つとして、本文中では3つとして記載されているということでしょうか。</p>	<p>柏市一般廃棄物処理基本計画において、3つの清掃工場とは、柏市北部クリーンセンター、柏市南部クリーンセンター、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合のごみ処理施設（クリーンセンターしらさぎ）のごみ焼却施設を示しております。</p> <p>柏市リサイクルプラザは、一般家庭から排出される資源品を集め、選別・圧縮処理する施設です。</p>

No	ご意見	市の考え方
7	<p>4. 第3章p23,27,29,31,37,47,51</p> <p>■改訂前と改訂後の図について■</p> <p>改訂前と改訂後の図を見たところ、変わったところが分からなかったのですが、どの箇所が改訂されたのでしょうか。</p>	<p>各ページの変更点については、以下のとおりとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P23,27,29,31,37,47,51の全てのページに共通して、柏インター西土地区画整理事業に伴う市街化区域を拡大しております。 ・P23, P27は共通して、柏インター周辺の地域振興拠点の範囲を拡大しております。 ・P37については、柏インター周辺の地域振興拠点の範囲を拡大、又、柏の葉キャンパス駅周辺の産業創出地区及び工業系市街地の範囲を拡大しております。 ・P47については、柏たなか駅の東側に位置する吉祥院北地区土地区画整理事業により面整備実施区域を拡大、又、凡例に対象事業を追記しております。
8	<p>5. 参考資料</p> <p>■用語集について■</p> <p>用語集に追記した方が良いのではと思ったものを以下に記載致します。</p> <p>○インキュベーション施設</p> <p>○アーバンデザイン</p> <p>○スマートシティ</p> <p>○コンパクト・プラス・ネットワーク</p>	<p>用語集へ追加いたします。</p>
9	<p>6. 第3章P23,29,51</p> <p>■構想路線と千葉北西連絡道路について■</p> <p>千葉北西連絡道路は、該当ページに記載されている図で言うところの、「構想路線」でしょうか。または、構想路線と千葉北西連絡道路は別なのでしょうか。</p>	<p>P23,P29,P51に記載している「構想路線」は千葉北西連絡道路になります。なお、当該道路は国によりルートを含めた計画の具体化に向けて検討されております。</p>
10	<p>7. 第3章P49 第4章P74,80</p> <p>■鉄道駅周辺などの交通結節点の利便性向上について■</p> <p>鉄道駅周辺などの交通結節点の利便性向上を図る目的で、「柏駅周辺においては、駅前広場や周辺道路の再整備により回遊性の向上を図ります。」と記載されております。</p> <p>豊四季台地区周辺から徒歩で柏駅西口へ向かう際には、水戸街道を横断し高島屋フラワー通りを通行し通勤等しております。毎日思っているのですが、西側にある横断歩道と東側にある地下歩道が、どちらも少し遠回りになってしまうため、横断するのに少し不便を感じております。</p> <p>また、他の方もそう思われているのか、水戸街道と高島屋フラワー通りの交点である西側の横断歩道を使用せず、横断歩道がない東側から、ショートカットして渡る自転車や歩行者の方が度々見られます。不便だけでなく安全面でも不安があるため、今後検討して頂けると有り難いです。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、道路交通を所管する土木部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
11	<p>4章 4-2地域別構想 (1) 北部1地域 4) 分野別方針 (p59-p61) における記述について、2026年度完成を目指して進められている柏の葉キャンパス地区と柏たなか周辺地区を結ぶ都市軸道路(国道16号アンダーパス)の開通に向けて、柏たなか駅周辺地区および大室地区と柏の葉キャンパス周辺との回遊性の向上及び、それを見据えた産業・商業・住居の土地利用誘導を図る旨、一考ください。</p> <p>意図としては、当該地区周辺には子育て世帯から高齢者世帯、近隣に勤める有期転勤者など様々な属性の居住者がいることから、移動手段などの生活様式も多様であるため、それらに配慮しつつ当該地区の線的な繋がりを意識しながら、回遊性を高める土地利用と移動の快適性向上を図る方針としていただきたい次第です。</p>	<p>P22の都市づくりの目標1「利便性や住環境が確保された持続可能なまち」における「鉄道駅等の拠点への都市機能の集積や拠点へ移動しやすい公共交通ネットワークの構築、公共交通の利便性が高い地域における居住の持続などの良好な住環境の形成を促進する」といった内容に、いただいたご意見の考え方が含まれております。</p> <p>なお、産業の誘導に関しては経済産業部、交通に関しては土木部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	ご意見	市の考え方
12	<p>④交通体系 「交通不便地域におけるコミュニティバス・バスの増便等、公共交通の利便性の向上に努めます。」を加えてほしい。</p> <p><理由> 高齢の知人から「自分の住む地域はバスの本数が少なく、病院に通う日は朝家を出て帰宅するのは夕方になってしまう」という話を聞きました。 柏全体の状況を把握し、公共交通の利便性向上に力を注いでいただきたいです。</p>	
13	<p>江戸川台駅→みどり台経由 柏の葉キャンパス駅 現在運行されている江戸川台駅からキャンパス駅を走っているコミュニティバスの運行時間の増便をして下さい。</p> <p>朝・夕の時間帯は1時間に2本走っていますが、その他の時間は1時間に1本なので、せめて30分間に2本走らせて下さい。 運転手の不足等の問題もあるとおもいますが、高齢者の利用客の立場も考慮お願いします。東武バス西口事業会社の方ともご相談して下さい。宜しく切に願います。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、P48の(4)交通体系において、「バス事業者と連携しながら、身近な公共交通であるバス交通の利便性の向上を図ります。」としております。 なお、公共交通の利便性向上につきましては、地域の移動需要や既存の公共交通の利用実態を把握の上、検討していくことが必要と考えます。 いただいたご意見につきましては、公共交通を所管する土木部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
14	<p>p 61の交通体系の項に以下を追記</p> <p>西原、みどり台などの交通不便地域に、コミュニティバスや路線バスの増便や運賃の高齢者などの割引制度をとりいれた交通体系を確立する。</p> <p>提案理由：西原やみどり台地域は、本計画の「交通体系」（p. 17）のとおり、現行の交通体系のエリアから外れた交通不便地域である。ここで生活する私の身近な高齢者は、自動車や自転車の利用もできなくなり、買い物など日常生活に不便を強いられている。今後も高齢者人口が増加することから、コミュニティバスの整備や路線バスの増便、高齢者の運賃割引などを導入して、「交通体系」の課題に示されている（p. 18）や本計画の3つの目標の実現としての計画が必要と考える。</p>	
15	<p>(1) 都市計画マスタープラン改訂とのことで説明会に出席したが、重要で膨大な改訂にもかかわらず、柏市の説明はマスタープランに関しては僅か20分程度だった。都市計画マスタープランは今後20年の都市計画を方向づける重要文書だとのことだが、市民説明があまりにも簡単すぎる。案においてなぜこれが加筆され、なぜこれが削除されるのか、の具体的な説明をするべきであった。正式に決める前に、再度、ていねいに市民説明をするべきで、その上で市民意見を聴いて決めるべきである。</p>	<p>今回の柏市都市計画マスタープランの説明会では、改定の主なポイントについて、説明させていただいております。</p>
16	<p>(2) 柏駅周辺にかかわる項目についたのは、「柏セントラルグランドデザイン」（以下、「グランドデザイン」）を正式に位置づけたことである。「グランドデザイン」について私の出席した説明会ではその説明はなく、またホームページにアップされた都市計画マスタープランの改訂でも巻末の資料に数行あるだけである。同計画はUDC2という民間組織が検討したもののようであるが、これが突然、なぜ柏市の公式な都市計画マスタープランに位置づけられたのが理解できない。「グランドデザイン」の内容は、柏駅周辺では、商業横ばい、公共公益施設を呼び込み、駅周辺をタワーマンション化するものだが、こうした「中心市街地像」の計画を、そのまま市民にも説明なしに市の計画、マスタープランとすることはどうしてなのか。</p>	<p>ご意見いただいた(2)につきまして、柏セントラルグランドデザインは、あくまで、関連計画として掲記したものであり、都市計画マスタープランとして新たな位置付けを与えたものではありません。</p> <p>ご意見いただいた(3)につきまして、当初、在宅医療・介護サービス拠点やサービス付き高齢者向け住宅等を暮らしの小拠点に一体的に誘導する考えでしたが、現在は多職種連携を進めることにより、暮らしの小拠点だけではなく中圏域全体ひいては市域全体でサービスを提供できる体制・仕組みを整備する方針としたため、当該記述を削除しております。</p>
17	<p>(3) 市民にとって大事にみえることが理由、説明がないまま削除されているが、どういうことなのか。たとえば、高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅等）の項で、「徒歩圏を中心とした範囲における日常生活サービスの提供や居住者の公共交通利用促進の観点から、暮らしの小拠点において立地されるよう誘導を図ります」を削除したのは、どういう理由なのか。市民にしっかり説明し、十分議論した上で決定すべきものと考ええる。</p>	<p>今後も引き続き、市民の方々へご説明させていただく際には、いただいたご意見を踏まえ、できる限りわかりやすく説明してまいります。</p>
18	<p>・子育て支援について(2章9ページ) 人口減少を少しでも食い止めるために、子育て支援が不可欠であると考え。兵庫県明石市が子育て政策に力を入れた結果、人口増・出生率増・予算増と好循環になっているという実例がある。また、隣接の流山市も、「母になるなら流山」のスローガンのもと、おおたかの森を中心に賑わいを見せている。先駆けとなっている他市の良いところを柔軟に取り入れ、柏市なりにアレンジしていくことが、急務ではないか。兄弟が揃って同じ保育園に入れるようにする、所得制限なしの児童手当や所得控除を設ける、など、子育てに力を入れ、市内外で評判になるような取り組みをしてはどうか。</p>	<p>子育て支援の充実につきましては重要なことと認識しております。 いただいたご意見につきましては、こども部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
19	<p>・オンライン選挙の実施について(2章9ページ) 先の市議会議員選挙の結果を鑑みても、投票率の低下が著しい。少子高齢化が進んでいる地域ほど投票率が高いように見受けられる。現状の選挙の方法では、若者の選挙への参画が難しいのではないかと。今後の柏市を担っていく若者・子育て世帯が、何を望んでいるのかを認識し、代弁していく市議会議員が増えることで、将来的な人口減少を少しでも食い止めることができるのではないかと。若い世代が少しでも選挙に参加しやすくなるよう、オンライン選挙の実施を提案する。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、選挙管理委員会事務局に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>

No	ご意見	市の考え方
20	<p>・学校給食の自校式化について(2章9ページ)</p> <p>食育における学校給食の重要性は極めて高いと考える。温かくて美味しい給食を提供することで、給食が好きになる子供たちが増え、食への興味や感謝の気持ちが芽生え、健康の土台となる身体づくりができる。実際にセンター給食より、自校式給食を採用している学校の方が、残菜が少ないというデータもある。地域によって格差を作るのではなく、市内のどこに住んでも同じように温かい給食が食べられるよう、給食のシステムを一貫するべきである。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、教育委員会に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
21	<p>・柏たなか地域の住環境について(4章61ページ)</p> <p>現在は商業施設の選択肢が極めて少なく、食品や日用品を調達するのも、柏の葉キャンパス駅エリアや北柏駅エリアまで行く必要がある。また、飲食店も少なく、気軽に食事を済ませることも難しい。柏たなか地域で、生活が完結するよう、商業施設の発展に力を入れてほしい。</p>	<p>商業施設については、民間事業者の基準により、立地が判断されるものと考えますが、柏たなか駅周辺においては、商業施設のニーズがあることから、土地利用を考える地権者や民間事業者に対し、商業施設の整備について、要望に努めてまいりたいと考えております。</p>
22	<p>・ゴミの回収頻度について(4章46ページ)</p> <p>住生活の確保・向上のために、ゴミの回収頻度についても触れるべきであると考え。旧沼南地域のゴミの回収頻度は非常に高く、燃えるゴミが週3回、資源ごみも週1回である。柏地域は、燃えるゴミが週2回、資源ごみは月に2回であり、特に資源ごみの回収日は、ゴミステーションに入りきらないほどのごみが並んでいる。このため、柏地域でも、沼南地域と同じような頻度でゴミの回収をするべきだと考える。また、ゴミの回収頻度を上げ、それをアピールすることで、時間の制約がある子育て世帯や働く世帯の人口増加も見込めるのではないかと考える。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、環境部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
23	<p>・観光資源を利用した手賀地域の活性化について(4章95ページ)</p> <p>近年キャンプ場がいくつも設けられ、少しずつ活気を取り戻しているように感じる。手賀沼や森林といった観光資源を十分に活用するため、自然と共存した開発が必要である。例えば、グランピングができる宿泊施設を誘致し、都内や近隣の県から若者やシニア、子連れなど、旅行の需要がある層を呼び込む。都内から車で1時間の距離にある柏市はブランド化すれば、固定客も見込めるのではないかと。</p>	<p>手賀沼エリアについては、今回の改定のポイントのひとつとして、来訪者などの交流人口の拡大を目指しております。</p> <p>柏市都市計画マスタープランでは、柏市観光基本計画と連携しながら、自然環境を保全しつつ、魅力向上に寄与する土地利用を検討していく考えです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、経済産業部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
24	<p>・住環境の整備による手賀中学区の活性化について(4章98ページ)</p> <p>市街化調整区域に指定されていることで、市内の他地域や、市外からの流入が少ないだけでなく、既存住民の子世帯が新しく住居を建てることも難しい場合があり、住民の流出が問題となっている。手賀の杜地域のように、住環境が整備されているエリアを手賀中学区にも作り、住民の流出に歯止めをかける必要がある。手賀の杜地区との差別化を図るため、二世帯住宅が建てられる広い土地を分譲し、交通手段や通信環境を整えるのはどうか。</p>	<p>手賀中学区の活性化につきましては、いただいたご意見や他市の事例などを参考にし、引き続き、地域の資源や特性を生かした東部地域の活性化を図っていきたくと考えております。</p>
25	<p>・手賀近隣センターについて(4章99ページ)</p> <p>貸出スペースのみの機能しかないため、出張所の機能を設けてほしい。手賀地域は特に高齢化しているので、体力や移動手段の面から、沼南出張所に行くのも難しい住民が多い。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、企画部、市民生活部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
26	<p>既存集落内宅地、田園優良住宅について</p> <p>わが家のある集落でも古い住宅が取り壊され、その跡地に外部から転居するという事例が出てきました。集落の中には高齢者世帯も多く、これからも空き家、空き地が増加するものと思われます。</p> <p>田園優良住宅も数十年前から出ては消えを繰り返してきましたが、今回、人口減少社会の中であえて再登場させた意味はどこにあるのでしょうか。既存集落内および周辺において新たな住宅を積極的に建設するという方針も、これまでの住宅開発と同様の土地分譲のビジネスモデルであるなら、将来、空き家や宅地の細分化による環境悪化を招くことになりかねません。</p> <p>いまの手賀地域は世代交代ができずに地域社会が縮小、消滅に向かっている状態です。</p>	<p>既存集落における空き家、空き地の増加といった課題への対応については、いただいたご意見や他市の事例などを参考にしながら、引き続き、地域の資源や特性を生かした東部地域の活性化を図っていきたくと考えております。</p>

No	ご意見	市の考え方
27	<p>暮らしの小拠点について</p> <p>日々の暮らしを支えるサービスを提供するセンター機能を持った拠点を生活圏ごとに整えるという方針は評価します。ただ手賀地域では旧手賀農協周辺を想定しているようですが、具体的な姿が見えません。人口減少に悩む手賀地区をどうするか。手賀地区で生まれ育った若年層をどうしたら外に出ないで済むか、どうしたら戻ってきてもらえるかをまず考えるべきでしょう。若年層の要望に沿った住居を地域内で提供してはどうでしょうか。子育て期の一時的な賃貸住宅でいいと思います。</p> <p>さらに高齢者世帯の増大です。高齢化に伴い行動能力が減退し、地域内に店舗や医療機関が少ないことから利便サービスへのアクセスが一層難しくなります。</p> <p>手賀地域内に若い核家族が住みたくするようなおしゃれな住まいと隠居暮らしを可能とする低層の賃貸集合住宅はできないでしょうか。もちろんその中には小さなスーパーマーケットや診療所、保育園もあつたらいいですね。まさに手賀地域の暮らしの小さな小拠点です。戸建て住宅用地を用意する必要はありません。戸建て住宅は既存宅地やこれまでの施策で十分と思います。</p> <p>そこで具体的な提案です。</p> <p>●手賀東小、手賀西小、手賀中学校を合わせた小中一貫校を手賀の丘少年自然の家に移転あるいは周辺に新設します。農地も残しつつ、周辺の自然環境や手賀の丘公園と組み合わせたユニークな教育プログラムを提供し、外部からの転入生も受け入れます。自然の家の一部の宿泊機能を国内留学生の寮として活用することも可能です。</p> <p>●手賀中学校の移転跡地に子育て世代向けや高齢者向けの低層集合住宅と様々なサービス拠点を整備します。中心広場では将来の地域を担う幼い子供たちを老人たちが見守ります。手賀地域に暮らす人たちもそこに行けば日常のサービスを得られ、皆がそこに出向く機会が増えれば地域内交流も一層活性化するでしょう。手賀東小、西小学校跡地の利用はまだ思い浮かびません。介護付き高齢者住宅でも進出してもらいましょうか。</p>	<p>暮らしの小拠点の在り方については、いただいたご意見や他市の事例などを参考にし、引き続き、地域の資源や特性を生かした東部地域の活性化を図っていきたいと考えております。</p>
28	<p>手賀地域の農業振興について</p> <p>マスタープラン全体を見回して農業、農地に関しての記述は「市民農園や体験農園によって市民へ農業サービスを提供する」程度の内容にしか残念ながら読み取れませんでした。都市住民と農地が隣接している柏市のまちづくりの中で農産物直売や体験農業の推進は大きな施策であると思います。近年、道の駅も拡張され、すでに20年以上も続けられてきたこれらの施策は浸透し相応の効果を上げていると思います。しかし、手賀沼周辺の水田のすべて、そしてまとまった台地上の畑地は戦後食糧難の時代に構想された土地改良事業により農業空間として整備されています。その土地基盤整備の実績からも農業振興を主と考えるべき地域であると思います。農業関連で現在最も重要な問題は廃業した大多数の農家が管理していた耕作放棄地、遊休農地対策です。営々と長年管理維持されてきた農地がひとたび人の手が入らなくなると、原野山林へ遷移していきます。原野山林ならふたたび農地として利用することは可能です。しかし、砂利やコンクリート廃材などが投入されれば都市的利用以外にありません。</p> <p>また、農地の維持管理技術も継承されなければなりません。</p> <p>現場では若い就農者が激減しています。農家であってもその子弟が農業を引き継いでおりません。柏市でも新規就農者は年に数人ずつ出ているようですが、10年後まで定着できている新規農業者は少ないようです。</p> <p>(1)集落あるいは小学校区程度の広がり「残された農家」、基幹農家が共同出資して農地管理法人を立ち上げます。</p> <p>(2)遊休農地等の情報を収集し、農地を管理する代わりに無償で貸してもらえよう地主と協議し、農地管理法人に農地を集約します。</p> <p>(3)法人を構成する基幹農家のなかで利活用できる農地があれば借用あるいは入手して自らの農業経営を拡大します。</p> <p>(4)基幹農家で管理できない農地は法人がボランティア等の支援を受けながら景観作物等の粗放的な管理を行います。</p> <p>(5)新たな特産品などの可能性がみつければ法人自らが農作物の生産に取り組みます。</p> <p>(6)一方で、農作業体験、市民農園経営、新規就農希望者向け研修農場の設置等を通じて、地域農業の新たな担い手育成にも取り組みます。</p> <p>(7)新たな担い手が独立後も、農業機械の貸し出しや作業講負、共同販売等を通じて法人および基幹農家が支援します。</p> <p>(8)もちろん農産物直売所のある道の駅しょうなんが調整等の中核になります</p> <p>いわば、地域の農地を地域の農家が共同で守る現代版地主機関。具体的な農業の担い手は基幹農家だけでなく、農業の必要性に気付いた市民、ボランティアの方々とそこから派生した新規就農者たちになります。</p> <p>少なくとも当面の最大の農政課題は、増大する遊休農地対策と食料自給のための技術継承、そのための担い手の育成であると考えます。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、農業政策を所管する経済産業部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>
29	<p>柏市における手賀沼エリアの位置づけ</p> <p>今回の都市マスタープラン改定のポイントの一つは「貴重な自然を活かした手賀沼エリアの観光拠点化」ということです。しかし、首都圏でも水辺のレジャーやアウトドアアクティビティのフィールドとして、より可能性のある資源を有する地域は数多くあります。</p> <p>手賀沼エリアで展開すべきは、さらなる観光振興でなく『手賀沼文化』と農業の振興です。手賀沼エリアは特にマインドフルネス（心の健康）を維持回復増進させる空間とし、体の健康だけでなく、心が健康で、さらに幸福感や充実感がある、ストレスフリーな（もしくはうまくストレスと付き合っている）ウェルビーイング（Wellbeing）なまちを柏市は目指すべきです。そのことによって柏駅周辺の商業集積や柏の葉のスマートシティといった他の地域の特性をさらに引き立たせ、柏市全体のバランスのとれたまちづくりが実現できると確信します。</p> <p>具体的な施策としては、歴史散歩や農業体験といった既存の施策のほか、泉龍泉院、鷲野谷医王寺、柳戸弘誓院を巡る「座禅・念仏・写経体験ツアー」や「手賀沼俳句教室」「手賀沼写真教室」などの新たな視点からの企画が生まれるでしょう。期待しています。</p>	<p>手賀沼エリアについては、今回の改定のポイントのひとつとして、来訪者などの交流人口の拡大を目指しております。</p> <p>柏市都市計画マスタープランでは、柏市観光基本計画と連携しながら、自然環境を保全しつつ、魅力向上に寄与する土地利用を検討していく考えです。</p> <p>いただいたご意見につきましては、経済産業部に情報を共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>